

---

# いっしょに暮らそっ！ (転)

月野真昼

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

いっしょに暮らそっ！ (転)

### 【Nコード】

N6866B

### 【作者名】

月野真昼

### 【あらすじ】

この春から大学一年生になる虎次は兄の竜一に新居を燃やされた！巡り巡って兄の親友である翼の部屋に住むことになったのだが、翼には大きな秘密があつて……。グループ小説第十一弾、起承転結の転作品。先に影之兔チャモさんの『いっしょに暮らそっ (起)』と神崎颯さんの『一緒に暮らそっ (承)』を読んでください。

いっしょに暮らそっ！ (転)



あお兄さんに話してみなさい」

兄貴は仁王立ちをして胸を大きく反らしている。

「いくら兄弟だからって、人の家に勝手に上がるなよな。チャイムくらい鳴らせよ！」

俺はアパートを追い出され、翼さんの家に居候させてもらっている事も忘れて怒鳴った。

「ごめん、実は虎次君の歓迎会をしようと思って竜一も呼んじやった」

と、そこへ翼さんが現れる。

「人数が多いほうが楽しいかと思っただけど……、駄目だったかな？」

翼さんが拝む様にして俺を見つめてくる。

「いえ、そんなとんでもない！」

俺は慌てて返事をした。翼さんが呼んだなら仕方が無い……。まだ不満は富士山の頂の如く高く積み上げられていたが、ぐつと我慢した。

「それじゃあ、急いで夕飯の支度するからテレビでも見ててね」

そう言つと、買い物袋を持ってキッチンへと消えていく翼さん。慌てて追いかける俺。

翼さんの背中を追いかけながらチラリと兄貴を見やる。海岸で日光浴でもしているトドの様に、ゴロンと床に転がってテレビにかじりついていた。我ながら、こんな怠け者が恋敵だと思つと、情けなくてしょうがなくなってきた。

キッチンでは翼さんが、器用に包丁をさばいている。

「虎次君、主役は君なんだから、リビングで待っててよ」

経験則からか、兄貴には間違われなかった。

「翼さん、君は無しでお願いしますよお。俺ももう子供じゃ無いんですから」

翼さんとの距離を縮めたい。俺はそんな思いから呼び捨てで呼ぶ

いっしょに暮らそっ！ (転)

ようじょお願いしていた。

「それじゃあ、俺のことも翼さんじゃなくて、翼ってよんでよ。とら、じ、く、ん」

翼さんは手を止めて振り向き、いたずらっ子のような笑みを浮かべた。

「いやあ、呼び捨てには出来ないですよ」

翼さんの改心の笑顔に眩暈を覚えたが、ギリギリの所で踏みとどまる。

「じゃあ、虎次君は虎次君のままだねえ」

軽く微笑むと翼さんはまた料理に向き直る。

俺はというと、お皿や材料を出したり、洗い物をしたりと獅子奮迅の活躍を見せた、ハズ……。

「……カンパーイ!!!」

「これからも、よろしくな我が弟よ!」

「虎次君、何かわからないことがあったら遠慮なく聞いてね」

「はい!翼さんありがとうございます。兄貴とは、縁を切りたいくらいだよ……」

兄貴は、人が一生懸命作った料理だというのに、何の遠慮も無く胃袋へと料理を収めていった。

「んー、やっぱり翼が作った料理は最高だなあ。いつ食べても美味しいよ」

「ありがとう、竜一。そう言ってもらえると作ったかいかがあるかな。俺はコイツが食べ物と名のつくものを残したところを見たことが無かったが、あえて言うとはしなかった。恋する乙女モードの翼さんに水を差しても俺が悪者になるだけだしな。」

「こら、バカ兄貴。俺の分まで食べるんじゃない」

「お前の物は俺のもの、俺のものは俺のもの。だろ!」

「だろ！じゃないよ。お前は、ジャイオンか！」  
翼さんは翼さんで、俺と兄貴のてんやわんやの大騒ぎを見て笑いっぱなし。俺達三人はそれぞれ三者三様に楽しんでた。

時間がたち、アルコールが進んでほろ酔いになった翼さんが、思いがけない一言を発した。

「家に虎次君が来てくれて、本当に良かったなあ。今まで以上に楽しいよ」

俺はその言葉に込められている意味の全部を知る事は出来ないが、まんざら悪い気分ではなかった。けれども、翼さんの秘密を知っている俺としては、翼さんを好きな俺としては、無条件で喜ぶ事は出来なかった。

「良かったなあ、虎次。俺もお前のような良き弟を持って幸せだぞう」

天性の詐欺師のような男がよく言うよ。兄貴はもっともらしくうなずいて見せるが、俺は心の中で毒づいていた。

「それじゃあもっと楽しくなるように今度の日曜日、皆で遊園地に行かないか？もちろん言いだしっぺの俺のオゴリだ」

「「えー！！」」

驚きのあまり俺と翼さんは顔を見合わせた。人にたかることしか頭に無いような、ぐうたら兄貴が気前よくお金を出すなんて考えられない……。これはきつと何かある、そう俺の本能は告げていた。けれども翼さんと一緒に遊園地へ行けるといふ誘惑には勝てずに承諾した。翼さんも怪しさを感じつつ、しかし断わる理由は無いようで一緒に遊園地に行く事になった。

そして、日曜日の朝に不安は現実のものになった。翼さんと俺とで遊園地に着いた時、先にきているはずの兄貴が居なかったのだ。

いっしょに暮らそっ！ （転）

る。携帯もつながらず、兄貴と連絡すら取れなくなった。  
開演直前の遊園地の前で、俺と翼さん暫く途方にくれていた。

(後書き)

つたない文章で本当に申し訳ないです。次は春野天使さんです。  
どうかよろしくお願いします。

いっしょに暮らそっ! (転)

いっしょに暮らそっ！ ( 転 )

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。

出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6866b/>

---

いっしょに暮らそっ！ ( 転 )

2009年6月27日21時49分発行